

善意で就職したはずの職員が、なぜ虐待や暴力に走り、殺意に至るのか？
個人の資質・指導法だけの問題か。施設という閉鎖空間にも問題があるのでは。種々の知見から考察を試みる。

— 善意が悪意に変わる時 —

現代社会における施設の機能・本質を考える

オンライン講座「施設の本質を考える」（全4回シリーズ）

【後日視聴OK】 お申し込み後、日程の都合でご参加いただけなかった場合、事前に連絡があった方に限り、後日オンデマンド視聴の機会を提供致します。お忙しい現場の方も安心してご参加ください。

21世紀の今、後を絶たない、社会福祉施設や医療施設等における職員による虐待行為や凄惨な死傷事件。善意の気持ちで就職したはずの職員が、なぜ暴力に走り、殺意にまで至ってしまったのか。それは一部の「特異な個人」による過ちか、それとも「指導不足」が生み出した悲劇なのか。今回の4回のシリーズでは、1973年の『ルボ精神病棟』による告発・津久井やまゆり園事件・施設という閉鎖空間や役割が人間に与える研究の知見などを、あらためて見直し、「脱人間化」「排除の論理」等について検証を試みる。

▶ プログラム(各回 13:30～16:00 /時間の都合上、参加者から質問は、報告書の中で取り上げます。

第1回

2026年
5月30日(土)



大熊 由紀子・大熊 一夫（元朝日新聞記者・科学ジャーナリスト）

「社会の棄民」は終わったのか？ —『ルボ・精神病棟』が突きつける真実—
1970年の告発から半世紀。「くすり漬け」「収容ビジネス」「人権無視」の構造は解消されたのか。収容施設に流れる排除・拘束・非人間化の実態と根本原因を考察する。

第2回

2026年
6月27日(土)



佐々木 隆志（東京福祉大学副学長）

殺意はなぜ「正当化」されるのか —津久井やまゆり園事件に見る排除の論理—
社会を震撼させた凄惨な事件（2016年）は特異な個人の過ちとして片付けられるのか。犯人との面接・事件後の施設・社会の動きから排除の論理が正当化されるプロセスを考察する。

第3回

2026年
7月25日(土)



山入端 津由（元矯正施設心理専門員・沖縄国際大学名誉教授、犯罪・臨床心理学）

善人が悪魔に変わる時 —伝説的な心理学実験が証明した「役割」の恐怖—
「スタンフォード監獄実験（1971）」やミルグラム実験（1961年）等を再検証。悪意のない「普通の人」が空間の隔離と役割付与によって倫理綱を麻痺させ蛮行に至るメカニズムを心理学に考察する。

第4回

2026年
8月29日(土)



保良 昌徳（JASW会長、特養老人ホーム施設長、元沖縄国際大学教授）

誰のための施設？何のための施設？ —ゴッフマンの視座から問い直す—
長年の施設現場（特養）の経験とゴッフマンの『アサイラム』（1961年）をクロスさせ、施設が孕む「力動性」や「管理の罠」を考察、ソーシャルワーカーに求められる固有の視点を言及する。

▶ 対象

JASW・JFSW会員、福祉・医療・法務関係者、当事者団体、学生、一般希望者どなたでも

▶ 参加費

各回：2000円（資料代）
4回一括：6000円

▶ 申込み

下のURLまたはQRコードから

<https://x.gd/x2tqg>

※納入済みの参加費の返金はご遠慮ください。ご了承下さい。

※4回一括の方には、後日報告書（電子版）を進呈致します。

▶ 開催方法

ZOOMオンライン方式
※後日、オンデマンド配信（予定）

▶ 振込先

三菱UFJ銀行 麹町中央支店 普通 0069517
名義：ニホンソーシャルワーカーキョウカイ



【後援】日本精神保健福祉士協会・日本医療ソーシャルワーカー協会・日本社会福祉士会・日本介護福祉士会・日本ソーシャルワーク学会・日本社会福祉学会・日本地域福祉学会・日本子ども虐待防止学会・全国手をつなぐ育成会連合会・大阪精神医療人権センター・全国権利擁護支援ネットワーク・日本福祉施設士会・東北福祉大学同窓会介護事業所管理者会・日本科学技術ジャーナリスト会議・朝日新聞厚生文化事業団・全国老人福祉施設協議会・全国社会福祉法人経営者協議会（法人格省略・順不同）

【お問い合わせ】日本ソーシャルワーカー協会 事務局

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町3番7号 森山ビル西館4階401号室 TEL:03-5913-8871 FAX:03-5913-8872 E-mail: jasw@jasw.jp